

**皆川の日本史
授業1時間の流れ**
アクティブラーニング型

チームを作り、2【作業】の進捗状況や記入内容を確認する。さらに、つながりや因果関係について考えるシートに取り組み、教え合いながら理解し、次の4【試験】や5【メタ認知】の時間に備える。

2、3、4チーム2〜4人
*教え合いOK!
*時にはひとりでも考え込むのもOK!



2 作業
学習内容との対話2 [5分]
基礎知識の確認作業

3 学習
学習内容との対話3
+仲間との対話 [15分程度]
本日の事柄のつながりや応用を学び合う

4 試験
自己との対話1 [5分程度]
1・2・3で学んだ内容の試験(選択&つづやき) → 答え合わせ

5 メタ認知
自己との対話2+担当者との対話 [15分程度]
「振り返り&“質より量”シート」記入→担当者(先生)との対話(OKが出たら終了!)

5分までできる簡単な選択(○×・四択)問題とつづやき(もし□だったらとびつする?)問題の試験を行う。試験時間終了後、周囲の級友と交換し答え合わせをする。つづやき問題は各自の主観で○△?などをつける。

「振り返りシート」には、下記の項目に☑を入れる。

振り返りシート

- ① 本日の授業全体を5段階で自己評価(「学び家」度) → ☑を入れてみよう
 - 5: 「学び家」全開(理解するため、なんとかしよう・工夫しよう・わからないをも楽しもう)
 - 4: プチ「学び家」(少し理解するため、なんとかしよう・工夫する・わからないをも楽しもう)
 - 3: 「学び家」「教わり家」半々(なんとかしようと思いつつ、答えを写す聞く)
 - 2: プチ「教わり家」(少し答えを写す・聞く。少し答えを持っている人にベッタリ)
 - 1: 「教わり家」全開(答えを写す・聞く。答えを持っている人にベッタリ)
- ② 本日の授業内で自分ができたことに☑を入れよう(クラスメイト=学友[学びの友])
 - 会話する 訊く(質問する) 教える 教え合う 状況把握し合う
 - 聴く(傾聴:人の話を耳・目・心で丁寧に聴く)
 - 対話(日本史の授業内容を学友同士で深め合う)
 - 学友への感謝の気持ち 学友への謙虚さ(仲間を素直に受け入れる)
 - 自分が暇にならない 学友を暇にしない
 - 自分がフリーライダーにならない 学友をフリーライダーにしない

1 講義

学習内容との対話1
(KP法+板書) [10分]

「本日の問い」の提示、本日扱う単元内容について説明

単元内容に関わる「本日の問い」を板書し、レジユメ(配付プリント)の所定の欄に記入させる。KP(紙芝居プレゼンテーション)法を用いて、レジユメの内容に則して授業内容を説明する。基本的には教員による一方的な講義の時間である。なお、レジユメは、前の授業時に配付し予習できるようにになっており、基礎事項(単元内容を理解する上で最低限知っておくべき歴史用語)一覧や「NHK高校講座日本史」のQRコードも記載されている。



個人作業の時間である。
i 基礎事項の意味を一問一答問題集などで確認する。
ii 年表形式の穴埋め問題にレジユメや教科書などを使いながら取り組む。
iii 教科書本文の太字以外の穴埋め問題シートに取り組む。
i~iiiはどこからでも好きな順番で取り組んでも良い。

「質より量」シートは、下記の項目について、A4用紙1枚分に「質より量」で紙いっぱい書き出す。

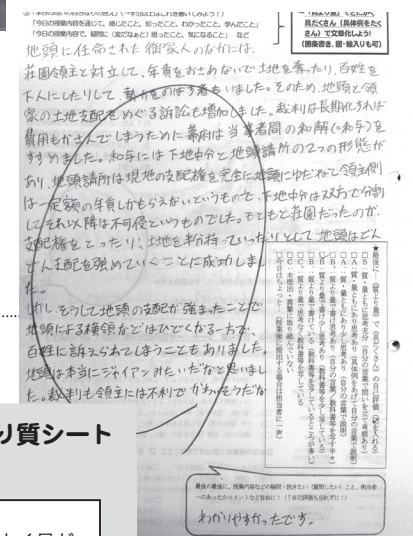
量より質シート

- 「本日の問いの自分なりの答え」(→半分以上はこれを書いてみよう!)
- 「今日の授業内容を通じて、感じたこと、知ったこと、わかったこと、学んだこと」
- 「今日の授業内容で、疑問に(変だなあと)思ったこと、気になること」
- 「授業内容などの疑問・訊きたい(質問したい)こと、担当者へのあったコメントなど自由に!」

「質より量」でとにかく具だくさん(具体例をたくさん)で文章化しよう!(箇条書き、図・絵入りも可)

★最後に…《質より量》で《具だくさん》の自己評価(☑を入れる)

- S : 質・量ともに思考充分(自分の言葉で問いを立て考察あり)
- A : 質・量ともにあり思考あり(具体例をあげて自分の言葉で説明)
- A- : 質・量ともにあり少し思考あり(自分の言葉で説明)
- B+ : 質より量で書け思考あり(自分の言葉/教科書等を写す半々)
- B : 質より量で書け少し思考あり(教科書等を少し写している)
- B- : 質より量で書けている(教科書等を写しているところが多い)
- C+ : 質より量で思考なく教科書等を写している
- C : 未提出・真摯に取り組んでいない
- 今日ちょっと…(授業後に提出する場合は担当者に一声)



「5:メタ認知」で生徒が書いた「量より質」シート。